

へいわってどんなんこと？

～絵本で考える

戦争・平和・命～

浜田桂子さん(絵本作家・画家)

2025年3月9日（日）森下文化センター多目的ホールで開催された
「東京大空襲80年 東京空襲を語り継ぐつどい」での講演から（要約）
東京大空襲・戦災資料センター 開館23周年
主催：東京大空襲を語り継ぐつどい実行委員会

「日・中・韓 平和絵本プロジェクト」

「東京大空襲80年」ということで、二度と繰り返してはならない、私たちに
何ができるか、皆様といっしょに考えたい。

2005年～2006年

日本の絵本作家4名（田畠精一、田島征三、和歌山静子、浜田桂子）が、
中国と韓国の絵本作家に「平和絵本」作りを呼びかける。

隣でありながら、中国・韓国との関係は、いつもぎくしゃくしてきた。日本は中國大陸に武力侵略して戦争を始めた。朝鮮半島では、民族のアイデンティティをすべて根こそぎ奪う植民地支配をした。1945年8月15日は日本にとっては敗戦だったが、朝鮮半島の人たちにとっては「光復節」光が宿ったという歴史がある。歴史の加害と被害、双方の記憶と痛みを共有し、未来を生きる子どもたちのために連帯して「平和」を発信できないか。3国12名の作家が、一人1冊作り、3国の共同出版にする。

2007年11月

南京大虐殺があった1937年から70年目の節目の年、中国南京に12名の絵本作家と出版社の編集者が集合。自分たちが作りたい「平和絵本」について語り議論した。どんちゃん騒ぎもしながら、心と心がつながり、「平和の絵本を作りましょう」という気持ちを共有できた。帰国後、『へいわって どんなんこと？』の制作に入った。その後、途中経過を公開して意見交換をしていった。

浜田さんの絵本『へいわって どんなこと?』の試作について

- ・日常の平和の姿をはっきりさせたい。
- ・平和のうれしさと喜びを表現したい。
- ・生まれてきたことのすごさ・尊さを描きたい。
- ・1冊の絵本に「平和」の概念を落とし込む。試作絵本10冊作成。

◇韓国作家から3場面について、日本人の被害者意識を表していると、受け身表現への批判

「せんそうするひこうきが とんでこないこと」

「ばくだんが ふってこないこと」

「いえやまちが はかいされないこと」

日本の方たちは平和っていうと、ヒロシマ・ナガサキを繰り返さないこと、日本中の空襲を繰り返さないこと、だから平和が大事というが、二度と他國の人を苦しめない、他國の人を踏みつけにしない、だから平和が大事という感覚が希薄で、無意識のうちに受け身の文章になるのではないか。

批判を受けて

子どもの立場からすれば、戦争は大人が始めるので、受け身の状況で違和感がなく、知識として「加害」の認識はあったが、感覚として、空襲や原爆など被害の光景がまず浮かんで、日本の東アジアの人々への加害の光景に思ひが及ばなかった。自分の「子ども観」の問題にも気づき、子どもはもっと主体的な存在であっていいはずだと、書き換えた。

「せんそうをしない」

「ばくだんなんか おとさない」

「いえや まちを はかいしない」

ナレーターである子どもを戦争を拒否する主体的な存在にして、子どもたちの意志が入った。

◇田畠精一さんからの指摘

「だれも ひとりぼっちにしない」

戦争の時は「ひとり」になりたくても「ひとり」になれない。全部同じに染められ同じ考えに。そう思わないと言うと「非国民」とレッテルを貼られ、排除される。

「ひとり」ってすごく大事。日本国憲法では「個人の尊重」が掲げられ、どれ

だけ大事か学んだ。個の考え方、個の立ち位置、個の発言と、確固たるものがあって連帶できる。個がない連帶は熱狂でしかない。

→「だれも ひとりぼっちにしない」 のページをとりやめ。

2011年4月『へいわって どんなこと?』発行。2011年韓国版、2012年中国版、2019年香港版、2021年ベトナム版発行。

2019年12月、香港市民の民主化運動とともに香港版出版。書店の店頭に並ぶ。コロナ蔓延の中でも各地で読書会が開かれ、最も支持された場面は「いやなことは いやだって、ひとりでも いけんが いえる」

2022年2月、ロシアによるウクライナ侵攻があって、日本の大学の先生の発案で、ウクライナの国立大学の学生と日本の学生がコラボして、ウクライナ語とロシア語に翻訳して YouTube で配信。子どもたちに希望を届けてくれる本と言ってくださいました。

子どもたちと語り合う いのちとへいわ

東京、ピョンヤン、ソウル、気仙沼でワークショップを開催。

対話交流を続けている NGO の仲介で、ピョンヤンの小学校で、子どもたちに直接絵本を読んで、語り掛けることができた。子どもたちは絵本に大喜び。ページごとに大きな返事をしてくれて、絵本をプレゼントしてきた。

東京大空襲とつながっている今日という日

*平和の種をまいてくださる方にどう応えるのか

*場所の記憶を

*子どもたちは仲間

*空襲の実態に向き合わない東京都・日本政府

*火を消すな！ どんどん薪をくべろ（これは、早乙女勝元さんの言葉）

わたしたちは薪を持っている。子どもたちも素晴らしい薪をもっている。

「戦災資料センター」は本来東京都が造るべきもので、日本政府も、「受忍論」によって、空襲犠牲者には何の補償もしていない。国による補償のは、「二度と戦争をしない」ということでもある。いろいろな裁判も行われ、「(補償は)立法によってなされるべき」という裁判官の意見も出ている。

諦めることなく薪をくべていこう。

~~~~~

## 『日・中・韓 平和絵本』10冊刊行 童心社

|                |                                  |
|----------------|----------------------------------|
| 「へいわって どんなこと」  | 浜田桂子 作                           |
| 「ぼくのこえがきこえますか」 | 田島征三 作                           |
| 「くつがいく」        | 和歌山静子 作                          |
| 「さくら」          | 田畠精一 作                           |
| 「京劇がきえた日」      | 姚紅 作 中田美子 訳                      |
| 「父さんたちが生きた日々」  | 岑龍 作 中田美子 訳                      |
| 「火城 燃える町 1938」 | 蔡皋 文 蔡皋・鞠子 絵 中田美子 訳              |
| 「非武装地帯に春がくると」  | イ・オクベ 作 おおたけきよみ 訳                |
| 「春姫という名前の赤ちゃん」 | ピョン・キジャ 文 チョン・スンガク 絵             |
| 「とうきび」         | クォン・ジョンセン 詩 キム・ファンヨン 絵 おおたけきよみ 訳 |

以下は、2018年08月06日 生協パルシステム KOKOKARA の記事より、ご了解をいただいて掲載させていただきます。

### 『花ばあば』もついに日本で出版に

——今年、クラウドファンディングによる市民の後押しを受けて、クォン・ユンドクさんの『花ばあば』（ころから刊）が出版されました。日中韓の平和絵本制作の中で、この本だけが日本で刊行できていなかったそうですね。

浜田 モデルとなったシム・ダリヨンさんの証言に事実と齟齬があるなどの理由で、日本での出版の道が途絶えてしまっていました。しかしこのプロジェクトを呼びかけた日本作家としては、断念するわけにはいきません。呼びかけ人の田島征三さんとともに、出版の手立てを探し続けました。出版を願う方たちの尽力もあって、クラウドファンディングで資金を募り、202人もの方の後押しを受けて出版にこぎつけました。「参加できてうれしい」とか、「本当にこういうものが大事だと思う」とか、胸打たれる応援コメントが多く寄せられ、すごくうれしかったです。

クォンさんは、この本を読んだ子どもが「日本って嫌な国」と思ったら困ると考えて、下書き本を何冊も作り、すごく悩んで制作なさいました。

例えば最後にアオザイを着た女の子がでてきます。これは、ベトナム戦争のときに集団的自衛権のもと送り込まれた韓国の兵士たちの残虐さを想起させるものです。日本告発でなく、普遍的な戦時性暴力を伝える本にしようとしたクォンさんの考え方はすごいなと思います。

今の日本では、かつての加害の歴史を否定し、慰安婦問題などの言論表現をヒステリックに攻撃する風潮があります。私たちに必要なことは、真実を知り被害者の思いを想像することです。日本社会がもっと緩やかであればと願います。

加害の認識が戦争を嫌う気持ちを育てる

——この絵本プロジェクトに携わってこられて、今、どんなことを感じていらっしゃいますか。

浜田 「日・中・韓平和絵本」プロジェクトに関わって以来、被害者意識だけで本当に戦争を拒否できるのだろうかということを考え始めました。

3年ほど前に高畠勲さんがあるインタビューで『火垂るの墓』は戦争を止める役には立たないのでとおっしゃっていて、「ああ、これだ！」と思いました。為政者はそういう目に遭わないために戦争をすると言うに決まっていると。私は、加害の認識を持つことが、戦争を嫌う気持ちを育てるのではと感じています。

中国の蔡皋（ツァイ・カオ）さんは、このプロジェクトの収穫は、『へいわって どんなこと？』だと絶賛してくださいました。過去のことと伝えている本が多い中で、この本は今と未来に向かっているからと。

韓国の作家さんたちも、絵本の読み聞かせをするときは、これは日本人たちが呼びかけたプロジェクトで作った絵本だと言ってくださっています。

絵本ができたら終わりということではないんです。日本でも、絵本から広がる世界をともに開いていっていただけることを願っています。